

勝ち抜く会社の経営幹部が学び直す「知の経営」講座

日程	内容	
第1回 2018年 2月28日 13:00- 17:00	企業競争に打ち勝つためには、技術革新・顧客志向の変化・エコ対策等激変するIoT・AI/ビッグデータ時代の環境変化に合わせる新しい経営を行わなければならない。それには、変化に合わせて、多様な知の結集により経営・業務の抜本的改革を目指す新しい知の経営（ナレッジ・マネジメントの進化系）を導入、実行する必要がある。本講義では「知の経営」の概要を解説。	変化する時代に合わせた「知の経営」とは？ ピータードラッカーが提唱した知識社会が進化し、今は「知の社会」が到来している。時代が変化し、いわゆるパラダイムシフトが起きた結果企業経営はどう変わったのだろうか？
第2回 2018年 3月14日 13:00- 17:00	知の社会と呼ばれる新しい現代には、あたらしい「知の経営」が要求され、顧客のニーズ・ウオンツ、社会のニーズ等の世界の変化に合わせた新しい経営戦略を策定しなければ生き残りはありえない。企業の目的は、売上向上や利益極大化ではなく、顧客や社会価値の創造にあることを一緒に考え学ぶ。	知の経営：新しい経営価値（顧客価値創造と社会価値創造） 日本企業の物作り（製品）は、高品質の代名詞だったが、バブル経済の崩壊以降、経済や経営の質が変化し、さらにリーマンショックで企業経営は大きな痛手を受けた。
第3回 2018年 3月28日 13:00- 17:00	具体的な8カテゴリー、15アセスメント項目からなる評価基準を解説する。具体的には、①リーダーシップ、②社会的責任、③戦略計画、④組織能力、⑤顧客・市場の理解、⑥価値創造のプロセス、⑦活動結果、⑧振り返りと学習、の意味と経営評価の仕方を解説する。	知の経営：経営全体のレベルを示す「経営品質」の向上 最適な経営とは何か？ 世界60か国以上に普及している National Quality Award（国家品質賞）の経営評価基準の日本版による経営全体の評価の考え方を学ぶ。

<p>第4回 2018年 4月11日 13:00- 17:00</p>	<p>世界のベスト企業（SW 航空、GE、ノキア、アマゾン等）や、米国マルコムボルドリッジ国家品質賞受賞企業（リッツカールトン・ゼロックス）、日本経営品質賞受賞企業（ホンダ、トヨタ、スーパーホテル等）の事例を含めて、経営や業務のベストプラクティスに学ぶ経営変革手法「ベンチマーキング」の概要について解説する。</p>	<p>知の経営：ベンチマーキングによる経営革新 ベストな経営とは何かを、評価の視点ではなく、実際の成功事例から学ぶ。</p>
<p>第5回 2018年 4月25日 13:00- 17:00</p>	<p>米国ではIT投資の効果が上がっているが、日本では、IT投資と経済への効果が乖離している事実から、IT産業の現状の課題を考える。経済産業省が特に中小企業支援の施策として力をいれて2017年で17年目になる、ITコーディネータ制度についても解説する。</p>	<p>知の経営：IT経営（顧客から見たITとは？） IT（情報技術）を専門家やベンダーによる技術重視の開発視点ではなく、顧客ニーズや社会要請に合った本来の経営に求められるシステムを提供できるIT経営について解説する。</p>